

暑い時期の配慮

5月でも暑い日が多かった。

もうこんな気候になったのでしょうか。

学校現場は暑く、子供も意欲の低下やストレスがあり、大変そうです。

ある校長先生の話では、かつての夏休み前の状態みたいで、いろいろなことが起こっているようです。

エアコンの導入などの予定はあるようにも聞くが、今後順調に進むのだろうか？

ここでは、日常できることを考えてみよう。

1 窓を開けて換気しよう

1限目の授業が始まる時、直前まで教室に鍵がかかっており、「むっ」とした空気があると、学習意欲はどうなるか、聞くに及ばないであろう。

登庁したら、教頭や主任なら、分担して学校全体の廊下や教室の窓を開けよう。理科担任なら、学校の教室経営方針にもよるが、1限目にさわやかな気分で授業を行えるようにしたい。一番に窓を開け、換気と整理整頓、点検をしよう。

2 課題や宿題の分量を考えよう

杓子定規一辺倒や大人目線で生徒に課題を与えるのはいかがなものか。暑い時期は、部活動の大会前の時期とも重なることも想定でき、生徒が現在何に一番エネルギーと時間を使っているのかを考慮することも大切であろう。

3 午後の授業の内容を考えよう

指導計画にもよるが、暑い日の昼食後の5、6限目の授業は、座学より、実験などの活動的な内容を配置することも有効であろう。

4 いらいらさせない

ぐたーとした生徒、注意したくなるだろう。感情的に指導すると、生徒の反発は高まるかもしれない。反感をかけないような声かけや時には大目に見るなどの配慮も必要かもしれない。

先生も暑くて元気がないかもしれないし、生徒も同様だろう。

生徒は、まだまだ子供であり、先生方が「大人」になり、生徒を導いていかなければならない。

経験したことを思い出しながら書いたが、役に立つだろうか。

知恵を絞りながらがんばってください。